

# りんご研究所 ニュース



No. 103  
2024. 11. 8

## りんご研究所 参観デー!

りんご研究所参観デーを九月五日に黒石本所で、九月十三日に県南果樹部で開催しました。来場者はそれぞれ三〇〇〇名、四三〇名と大盛況で、中でも人気の高かったのが試験圃場見学ツアーです。黒石会場では「りんごの高密植栽培」に、県南果樹部では「大粒ぶどう」に



注目が集まり、多くの人が出で説明の声が届かないのではと心配されるほどでした。また、黒石会場のりんご講演会は立ち見が出るほど生産者の関心を引いていました。今年も当研究所の取り組み状況や成果を広くPRできました。来年度も生産者が興味を持って来場していただける研究成果や催し物を用意したいと思えます。



りんご講演会 (黒石)

## 令和六年度県りんご立木品評会の審査

去る十月二五日に、県りんご協会主催のりんご立木品評会の最終審査を所長、研究管理監、栽培部長、品種開発部長、病虫害管理部長の五人で行なってきました。審査した園地数は四支会、各支会四人の計十六園地でチーム戦です。四人の実力が揃っていないと良い成績は掴めません。審査項目は園地の充実具合、樹勢、病虫害防除、着色手入れ、着色、肥大、障害、収量、作業性、園地印象の十項目と園地や果実の状況をきめ細かく審査します。



審査園地

これらの項目すべてで高得点を獲得するのは至難の業ではないかと思われまます。実際の審査に入ると、各審査員とも、りんごは普段からいろいろな角度から見慣れているものの、最終審査に残った十六園地はどれもこれも素晴らしくて甲乙付けがたく、僅差の勝負となりました。

思い返せば、春からマメコバチの不足等に伴う結実確保の不安、生育期を通じての雨不足、高温による着色の不良、交信攪乱剤の初めての使用、治まらない腐らん病、ナシマルカイガラムシや褐斑病の多発など、令和六年度もさまざまな課題がありました。審査しながら、よくぞ、ここまで仕上げてきたものだ、と、生産者の皆さんの底力に感心しきりの一日となりました。



審査風景

### ニュージーランド視察研修

♪じゅんこのはじめてのおつかい♪

ニュージーランド)

(前号で紹介したニュージーランド視察研修のこぼれ話です。)

海外は初めての経験で、スーパーでの買い物も初めて。様々なりんご品種がバラ売りされていて値段が違い、売り場は見た目にも鮮やか。日本では見ない光景だなくとわくわくしながら5品種をかごに入れてセルフレジで購入し意気揚々とスーパーを出て宿で試食した。帰国後、青果物流通に詳しい方と購入方法について話題になったので、セルフレジでバーコードを通してレジにある量りに載せて買いました！と得意げに答えたところ、そんなはずはないとのこと。何でも、量り売りの青果物は識別用コードを入力してからでないと購入できない



スーパーの果実売り場の様子 (これは全部りんごです～なんちゃって)

はずだと。思い返せば、現地を案内してくれたベスさんが、私が一生懸命にりんごの重さを量っている横で何やら作業をしてくれていたような・・・。どうやら識別用コードを入力していたようで、親切な方が同行してくれたんですね、と笑い話に。上手くできたと思っただけのおつかい、実は保護者に見守られていた〇4歳のお子ちゃまでした。次はちゃんと一人で買えるようにがんばるぞ☆

### 自動運搬作業台車の実証!

りんごの作業で、普及しているスマート農業機械と言え、ロボット草刈機のみでした。自動の運搬作業台車は、各社から試作機または実証機が発表されています。今般、りんご研究所では、このうちの一機種について、春は剪定枝の収集・運搬と肥料散布作業、秋は収穫場所から山選果の場所まで手かごを運搬し、また収穫場所に戻る工程を実証し、操作方法や使い勝手、作業性等のデータ収集を行いました。今後、さらに完成度が高まっていくことで、労働力不足の中、作業を補完する、便利な農業機械となると期待されます。



### 編集後記

満を持してのりんご研ニュースの発行です。これからは毎月発行するくらいの気持ちで取り組みますのでよろしくお願ひします(Ⓚ)。